

## ”本気で”倫理カンファレンスを定着させるために —倫理を語りやすくする組織風土を目指して—

○本武 敏弘<sup>1,9)</sup>、前田 愛<sup>2,9)</sup>、小倉 圭介<sup>3,9)</sup>、富樫 剛清<sup>4,9)</sup>、葛島 慎吾<sup>5,9)</sup>、  
西 将希<sup>6,9)</sup>、板橋 朱麻留<sup>7,9)</sup>、高木 美歩<sup>8,9)</sup>

1) 福岡女学院看護大学、2) 昭和医科大学横浜市北部病院、3) 順天堂大学医学部附属浦安病院 診療部 メンタルクリニック、4) 医療法人社団積信会長谷川病院、5) 宮崎県立看護大学看護学部、6) 帝京大学医療技術学部看護学科、7) 淑徳大学看護栄養学部看護学科、8) 一般社団法人メンタルヘルスサポート九州 訪問看護ステーションアトラス福岡、9) こぐまの会

精神科病棟では、隔離・拘束、非同意入院、意思決定支援、家族調整など、倫理的葛藤を伴う場面が多く存在します。そのため、臨床で生じる「迷い」や「価値の対立」を言語化し、多職種で共有しながらケアの妥当性を検討する倫理カンファレンスの意義は大きいと考えられます。しかし現場では、「必要性は理解されているが開催できない」「継続せず形骸化する」といった課題が指摘されています。精神科病棟で倫理カンファレンスが定着しにくい理由は、先行研究でも共通して以下の点が指摘されています。1.病棟業務が逼迫しており、振り返りや対話の時間を確保しにくい (Totman et al., 2011)。2.隔離・拘束など感情的負荷の高いテーマが多く、発言への不安から心理的安全性が保たれにくい (Hem et al., 2018)。3.ファシリテーターや進行方法が整備されていないと、倫理的検討が深まらず形骸化しやすい (Molewijk et al., 2008 ; Bruun et al., 2019)。4.成果が短期的に可視化されにくく、優先順位が下がり継続が難しい (Haan et al., 2018)。5.有志や個人努力に依存すると制度化されず、繁忙期や異動で中断しやすい (Bruun et al., 2019)。6.看護基礎教育で倫理を体系的に学んでいない世代からは、意義が理解されにくく「今さら必要か」という抵抗が生じ、協力が得られにくい場合がある (小林, 2012 ; Hem et al., 2018)。以上のように、時間的制約、心理的安全性、運営体制、成果の見えにくさ、組織的支援不足に加え、スタッフ間の教育背景や文化の違いが複合して定着を阻んでいると整理できます。一方、国内でも行動制限最小化と権利擁護の推進が政策的に求められており (厚生労働省, 2023)、倫理実践を支える仕組みづくりは喫緊の課題です。行動制限最小化の

普及には教育・組織支援・継続的検討の場が重要とされており (杉山ほか, 2024)、倫理カンファレンスはその基盤となり得ます。これまで私たちは、倫理を語る場づくりや倫理的感受性を高めることを目的としたワークショップを継続的に企画し、倫理的対話の深まりには、倫理的感受性が動いた瞬間をどのように捉え直し、どのような条件のもとで語られるのが影響することを実感してまいりました。本ワークショップでは「”本気で”倫理カンファレンスを定着させるために」をテーマに、倫理を語りやすい組織風土をいかに形成するか、現場で実装可能な工夫と支援体制について、さまざまな組織風土の違いを理解し合いながら、明日からの現場に活用できるワールドカフェ形式でのディスカッションを目指したいと考えます。倫理的配慮として、ワークショップ内で共有された個人情報や体験は当該の場限りとし、外部に持ち出さないことを参加者間で確認した上で実施いたします。教育・臨床問わず、「倫理カンファレンスを定着させたい」という思いを形にしてみませんか。なお本ワークショップ開催にあたり利益相反はありません。また倫理的配慮として参加者の氏名・所属の開示については任意とし、またグループワークで語られた内容などについては参加者の皆様に対して秘密厳守の徹底について書面を用いて周知し、受付時に署名にて同意を確認します。参加者がファシリテーターおよび他の参加者の発問に対して語りたくない場合にはそれを尊重します。